

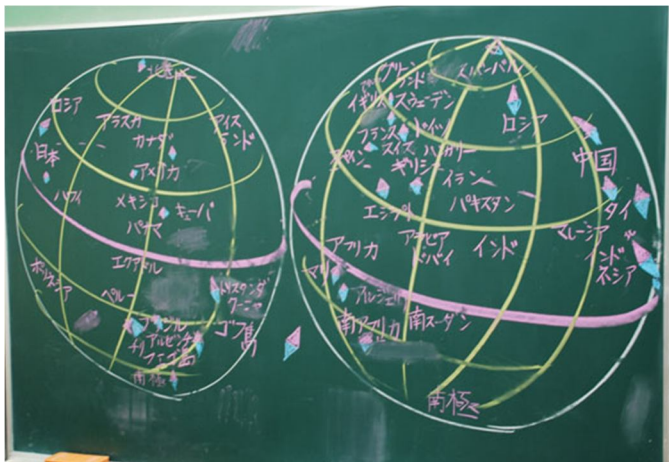
「3年・方位の探究 (12)」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

地磁気地球儀は、いよいよまとめの段階に入ってきた。子どもたちのノートには、世界各地で「観測した」磁針の向きが、意外なほど正確に記録されていた。私はこのままでは惜しいと思った。学んだことを口頭で発表させても良いのだが、やはり黒板に図示して、わかりやすくまとめておきたいと思ったのだ。いわゆる「教師根性」というヤツである。



私は3Dの地球をノートに書いた子どもの記録を参考に、黒板に地球の絵を描いて、主な地名のおよその位置も書いておいた。子どもたちの記録をもとに、そこに磁針の向きを書き込ませてみた。上の写真は、実物を黒板の前に持って来て、確かめながら記入しようとしている子どもである。



これが記入途中の地球の図である。左側が南北アメリカ大陸が中心の半球、右がアジアが中心の半球である。あくまでの略図だ。北半球だけでなく、南半球も磁針の向きに規則性があることがわかる。

ところが、黒板のまとめには全く興味を示さず、できあがった地磁気地球儀の中を5分も10分も、一心に覗いている子どもがいた。何かを探しているようにも見える。私は「何を観察しているの?」と聞いたが、内気な子なので、照れたような顔をして、答えてくれなかった。よく見ると、この子どもの周囲の子どもも同じような行動をとっている。



私はこの行動が気になって、あとでノートをめくって見た。ある子の記録に、私の疑問の答えがあった。

【子どものノートから】

「わたしは、方位じしんが、世界のどこにおいても全部北を向いたので、何がそういうふうにさせる原因なのかと、すごく不しぎでした。それで、地球の中心のじ石のまわりに、なにかもようみたいながないか、ちきゅうぎの中を、よく見てみました。そうしたら、空気にすじみたいのがうすく見えまして。そのすじみたいのが、方位じしんのはりを動かしているのだと思います。」

何と子どもたちは「磁力線」を目視しようと努力していたのである。見えるわけではないのに「見えた」というところも面白い。気密性の良い透明半球の中央に棒磁石を入れて、油で満たし、そこに鉄粉を浮かせたら、立体的な磁力線を見られそうだ。いや、地球外の磁力線も見するには、地球を囲む液体が必要だ。